



西新潟中央病院

NST NEWS 第62号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2019年6月4日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線1304

NSTミニレクチャー第37回 ～食べるということについて～

入院患者さんの高齢化・重症化に伴い栄養や摂食嚥下、誤嚥性肺炎の問題は重要となってきています。患者さんにとって食事とは本来、楽しみのひとつであります。しかし、NST回診の場面で感じることは「食べられない」「食べたくない」「もういい」といった患者さんの声。。。そのような声にどう寄り添い、支援していけばよいか悩むことはありませんか。

今回は看護師より「患者さんに寄り添った食支援とは」という視点でお話しさせていただきます。

今回は看護師より「患者さんに寄り添った食支援とは」という視点でお話しさせていただきます。

1. 患者さんの食べたいを支えるには

みなさん休憩時間、食事の時スマホ片手に食べていませんか？ただ空腹を満たすだけの食事になっていませんか？ご自分の食に対する姿勢を大事にしないと、患者さんの食事を大切に考えることはむずかしいと考えます。

私たちは、患者さんが経口摂取に限界がきている時、その人が人生をどう生きたいか、その人の尊厳を守るという視点で慎重に考え、アプローチしていく必要があります。

NSTチームは多職種と連携し、その人の「食べる」という行為を支えています。ただ必要カロリーを満たせばよしとするのではなく、患者さんに寄り添い、声にならない声を聞き、生きる力を支えるための食支援をしていくことが大切です。

<ここで おすすめの Books を！>



「とりあえず うみがめのスープを仕込もう」

宮下奈都 著 扶桑社

つくること、食べること、家族との時間を大切に思うこと。誰かのために料理がしたくなる本です。なにげない日常を大切にしたい子育て中のママさんにお薦めの一冊です。



「人生最後のご馳走」

青山ゆみこ 著 幻冬舎

みなさんは、人生最後の食事を誰とどこで食べたいですか。そして、それは何ですか。たまにはゆっくり考えてみるのはいかがでしょうか。

2. 経管栄養患者さんに摂食訓練を☆

長期経管栄養患者さんにもQOLの向上として、味覚訓練に着目し、摂食訓練を取り組んでいます。実際に行ってみると口腔内の自浄作用が高まり、口腔乾燥の改善が見られました。また、味覚刺激と唾液分泌促進のため、ペロペロキャンディーやわたあめをとり入れ、間接訓練と共に、訓練実施前後の口腔ケアの強化も図っています。訓練開始してからの体調の変化や、誤嚥性肺炎の発症はありません。病棟レクリエーションの夏祭りでも、ほぼ全員の方がわたあめを味わうことができ、患者さんはじめ御家族の方からも大変喜ばれております。

《文責：2病棟看護師 佐藤尚子》



今号から3回に渡り、摂食・嚥下の看護部の取り組みについて2病棟看護師佐藤尚子さんをお願いすることになりました。次号もお楽しみに！ 《栄養管理室 曾我》